

(3)

市民生活部の目標

安全で安心な住みよい 地域社会にします

産学官連携による脱炭素社会の実現や利便性の高い行政デジタル化に向けた取り組みを推進していきます。

また、地域防災力の強化や防犯、交通安全対策などを講じた地域づくりとともに、思いやりの心をもった社会づくりを推し進め市民の暮らしを豊かなものとし、安全で安心できる住みよい地域社会を目指します。

【実現に向けて】

防災環境課

- 自然災害や交通事故、犯罪などから市民の生命と財産を守り、安全で安心に過ごせるまちを目指します。
- 豊かな自然と共生し、潤いのある環境を未来につなぎます。

地域生活課

- 誰もが安全に安心して生活できるまちとしての環境を整備するとともに、地域・人のつながりの醸成を支援することでコミュニティの強化を図り、特色ある地域づくりを目指します。
- 「ごみ減量」と「リサイクル」に取り組むことで、環境にやさしいまちづくりや資源の有効活用、そして将来世代への負担軽減につなげます。

市民課

- 効率的で質の高い行政窓口サービスを目指します。
- 誹謗中傷や差別的な言動のない、住みよい地域社会を目指します。



防災環境課

めざすまちの姿①

自然災害や交通事故、犯罪などから
市民の生命と財産を守り、
安全で安心に過ごせるまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

日本はその地理的条件から台風や地震等の災害と向き合わざるを得ない宿命にあり、近年は地球温暖化や気候変動の影響により、大規模な自然災害が全国各地で発生しています。

平成 23 年に発生した東日本大震災や令和元年の台風 19 号などの教訓から、住民自らが自分（生命）を守る「自助」、町内会・自主防災組織や企業などによるつながりを持った防災としての「共助」、行政・消防・警察・自衛隊などによる公的機関からの支援である「公助」がそれぞれの役割を明確にするとともに、緊密に連携していくことが求められています。

また、地域防災力を強化するための防災意識の向上や担い手である消防団員の育成、消防施設等の計画的整備、さらには住民の高齢化にも対応できる救急・救助体制づくりが求められています。

次に、尊い命を交通事故から守るために、交通安全に取り組む体制の充実を図る必要があり、家庭や学校、職場、関係機関がそれぞれの役割を認識し連携を強化していくことが大切です。また、不審者から地域で子供たちを見守るとともに、近年巧妙化する詐欺犯罪等から若者や高齢者を守る必要があります。

これらのことから、市民一人ひとりが防災・消防、交通安全・防犯に対する意識を高めることにより安全で安心して暮らせるまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 大規模な災害が発生した場合には、行政、消防、警察などの公的機関による救助には限界があることから、近隣や町内会等が互いに助け合う「共助」による災害対策が必要とされています。
- 頻発化・激甚化する自然災害を想定した備蓄品の確保と適切な管理が必要です。
- 災害の発生状況を把握するため、情報の共有や道路・河川を監視するシステムを活用していく必要があります。

- 自主防災組織育成を強化するとともに、地域の防災拠点となる避難所の指定や整備が必要となります。
- 災害時の情報伝達手段を確保するため、情報通信基盤を整備する必要があります。
- 消防団員を確保するため、積極的な PR 活動により新入団員を増やす必要があります。
- 自然災害や火災対応の際に消防団員の身の安全を守るため、防火衣などの消防資機材の更新を計画的に図る必要があります。
- 交通事故発生件数に占める高齢者の割合は高く、今後、更に進む高齢化に対応するため、交通安全啓発をより一層推進する必要があります。
- 自転車利用者の交通違反や、歩行者の「あるきスマホ」などの行為が、重大事故につながる恐れがあるため、交通ルールを啓発する必要があります。
- 子どもや高齢者を交通事故から守るため、地域住民や行政などが一体となって、安全な交通環境の整備を図る必要があります。
- 子どもを狙った不審者情報や巧妙化する特殊詐欺等の犯罪情報の発信とともに、地域ぐるみの防犯体制を構築する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

防災力の強化

- 多くの住民が参加する防災訓練を継続的に実施するとともに、防災マップや広報紙の配布に加え、防災ラジオや出前講座を活用することにより、平時から災害への備えができるよう、防災・減災意識の高揚を図ります。
- 防災減災対策としてのリーダー的存在である防災士の育成を図るとともに、自主防災組織の設立支援や防災資機材の交付などにより防災力強化を図ります。
- 市地域防災計画を含めた各種計画を見直し、防災・減災体制の充実を図ります。
- 国や県の防災システムを利用し、災害情報の共有を図るとともに、道路・河川の監視システムの活用し、防災力を強化します。
- 最大の被害状況を想定し、備蓄品の確保や備蓄倉庫の維持管理を行います。

災害時相互応援協定の推進

- 近隣の自治体や友好都市、更には民間企業との応援協定を締結し、災害時における応援協力体制を強化します。

消防体制の充実

- 消防団員の勧誘を継続的に行い、特定の活動のみに参加する機能別消防団の導入などを検討するとともに、訓練の見直しなどの負担軽減を図り、活動しやすい環境を整えるように努めます。

防災環境課

消防施設の整備

- 小型ポンプ、積載車、ポンプ車を計画的に更新するとともに、補助金等を活用しながら消防団員の装備品等を充実させていきます。

交通安全対策の実施

- 警察をはじめ関係機関や民間団体と連携して、交通安全運動を行い、交通ルールの遵守など交通安全意識の啓発に努めます。
- シートベルト着用などを促す街頭活動や交通教育専門員による通学路の安全確保など、市民や地域が一体となった交通安全活動を推進します。
- 子どもや高齢者など、各世代に応じた交通安全教育を推進します。

防犯意識の啓発・防犯体制の充実

- 犯罪被害に遭わないよう、防犯意識の向上に努めます。
- 警察署・防犯協会・防犯指導隊と連携し、地域によるパトロールや見守りを促進します。



交通安全教室



防災訓練

関連する計画

- 地域防災計画
- 第11次白河市交通安全計画
- 公共施設個別施設計画
- 白河市国土強靱化地域計画
- 公共施設等総合管理計画

防災環境課

めざすまちの姿②

豊かな自然と共生し、
潤いのある環境を未来につなぎます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

今日の環境問題は、大気汚染、水質汚濁、騒音、ごみ問題といった日常生活の中で感じる身近なものから、地球温暖化が原因と考えられる異常気象の発生や生物多様性の危機等、地球規模のものまで、様々な課題に直面しており、市民生活への影響が顕在化しています。

このことから、美しい里山や清らかな水、澄み渡る空気、青空など、本市の豊かな環境を後世に引き継いでいくために、市民・事業者・行政が一体となって取り組むことが求められています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 化石燃料の大量消費や製品の大量生産、大量廃棄など経済優先の生活様式を推し進めた結果、温室効果ガスの排出量が増え、異常気象や自然災害の頻発化をもたらし、作物の生育や生態系への悪影響を及ぼしています。
- 人間活動*の広がりが自然植生の減少や分断化を進行させ、絶滅の危機にある動植物が増えています。地球環境を取り巻く現状を市民や事業者に周知し、環境保全の重要性や必要性についての理解を得て、生活様式の変容を促す必要があります。
- 脱炭素社会を実現するためには、新エネルギーや再生可能エネルギーの活用に向けた技術の確立を図る必要があります。また、事業者において脱炭素化を促進するため、設備導入を後押しするコスト解消策（補助制度等）を周知する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

自然環境の保全への意識の醸成

- 農地や森林、河川など多様な自然に生息、生育している多くの生物の棲み処を守るとともに、関係団体等と連携して、市民に自然と触れ合う機会や場を提供することで、自然環境の保全の重要性や必要性についての意識啓発を図ります。

再生可能エネルギー導入の推進

- 「地球温暖化対策実行計画」に基づき、公共施設の省エネや再生可能エネルギーを導入することで、温室効果ガス排出量を削減し環境負荷の低減を図ります。



かたくり

関連する計画

- 第3次白河市環境基本計画
- 公共施設等総合管理計画

- 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※ 人間活動：地球上においてのヒトが、文明などといった形で行っている活動全般のこと。

地域生活課

めざすまちの姿①

誰もが安全に安心して生活できるまちとしての環境を整備するとともに、地域・人のつながりの醸成を支援することでコミュニティの強化を図り、特色ある地域づくりを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

近年、全国的に町内会の加入率が低下し、地域活動の担い手不足が問題となっており、本市も例外ではないことから、地域活動を活性化させる必要があります。

また、誰もが暮らしやすいと感じることができる環境を整備するため、公共交通システム等の充実を図る必要があります。

高齢者や若者が巻き込まれる犯罪やトラブルが多様化し急増していることから、日常生活において消費者トラブルに巻き込まれないための対策を周知するなど、安全で安心して暮らせる地域づくりを目指します。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 町内会などの地域コミュニティ活動を活性化させる必要があります。
- 高校生などの若者が地域活性化活動やまちづくりへ参画することで、地域への愛着心を醸成する必要があります。
- 地域コミュニティの中核となる集会所を計画的に整備する必要があります。
- 結婚したいと思う人が安心して婚活できるように、結婚に対しての様々な不安を解消する仕組みを創る必要があります。
- 公共交通の維持・充実により、自家用車がなくても気軽に移動できる環境を整えていく必要があります。
- 消費生活センターにおける消費生活行政の充実と消費生活相談員の質の向上に取り組む必要があります。
- 「しらかわ地域定住自立圏の形成に関する協定」のもと県南9市町村による消費生活センター運営や事業の連携を図るとともに、消費生活相談の強化や啓発活動の充実に取り組む必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

地域の特性をいかした地域づくり

- 地域が抱える課題や問題を解決するため町内会や市民団体等から受けた提案を実現できるよう努めます。
- 特色ある地域コミュニティ活動への支援を実施します。
- 町内会等が実施する地域活性化活動への支援を実施します。

地域コミュニティの場の提供

- 婚活に不安を抱える男女の自然な出会いをサポートします。
- 結婚による新しい生活のスタートを支援します。

公共交通の維持・充実

- 多様化する移動ニーズや少ない需要にも対応した新たな交通システムの導入や公共交通の仕組みづくりを進めます。

消費者の安全・安心の確保

- 消費生活センターと関係機関との連絡体制を充実します。
- 消費者トラブルの対処方法や問題事例などの情報を提供します。
- 若者や高齢者等に向けた啓発活動を実施します。
- 消費生活相談員の研修機会の充実を図り、質の高い相談体制を整備します。
- 消費者問題に適切に対応するため、専門家（弁護士）による無料法律相談を定期的を実施します。



循環バス こみねっと



消費生活センター発足

関連する計画

- 白河市地域公共交通計画

地域生活課

めざすまちの姿②

「ごみ減量」と「リサイクル」に取り組むことで、
環境にやさしいまちづくりや資源の有効活用、
そして将来世代への負担軽減につなげます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

福島県は全国的に見て、1人1日あたりのごみ排出量が多く（ワースト上位の常連）、白河市は県平均よりも多くのごみを排出しています。

「ごみの減量」と「リサイクル」の取り組みを通して、ごみを減らすことが自然環境の保護や資源の有効活用にもつながることを市民に意識してもらい、環境にやさしいまちの実現を図ります。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 生活系ごみでは、生ごみが約35%を占めており、その中身の約80%は水分で燃えにくい
ため、焼却コストの増加や環境負荷の要因となっていることから、生ごみを減らす必要
があります。
- 燃えるごみの中には、資源化可能なプラスチックや紙類が混入しており、きちんと分別
することで資源として利活用できることから、リサイクルに対する意識付けが必要とな
ります。
- リサイクル（再生利用）をはじめ、リデュース（発生抑制）とリユース（再使用）を優先
する意識を高める必要があります。
- ごみ出しのマナーが守られないケースがあるため、ごみ出しマナーの意識向上が必要とな
ります。
- 観光地周辺のごみ集積所は、景観に配慮したデザインが望ましいため、ごみ集積ボックス
を更新していく必要があります。



◆ 課題を解決するための取り組み

ごみ減量化への取り組み

- 分別の再徹底を啓発：資源化可能なプラスチックや紙類が「燃えるごみ」に混入するのを
防ぐため、啓発活動を拡大し、3R（廃棄物を減らす「Reduce（リデュース）」、繰り返し
使う「Reuse（リユース）」、資源として再利用する「Recycle（リサイクル）」を推進する
ことで環境負荷の少ない社会を実現していきます。
- 「水切り」の徹底：生ごみ用の紙製水切り袋等の配布を行うことで、水切りの実践と水切
りに対する意識付けを向上させていきます。
- 生ごみ処理容器等による減量化：生ごみ処理機、コンポスト等の購入に補助金を出すこと
で家庭等での導入を拡大させます。また、段ボールコンポストの積極的な活用も推進し、
家庭での生ごみ減量を進めていきます。

環境にやさしいまちづくりの推進

- ごみ出しのマナーが向上するよう、多くの人が集まるイベント等での啓発活動を進めてい
きます。
- 地域住民と高校生が意見交換を行いながら、景観に配慮したごみ集積ボックスを高校生に
製作してもらうなど、観光地にマッチしたごみ集積ボックスの設置を進めていきます。
- 環境学習教室などで、幼少期からの意識付けを行っていきます。



紙製水切り袋



景観まちづくり美化推進事業（白河実業高校機械科製作）

関連する
計画

- 第3次白河市環境基本計画



市民課

めざすまちの姿①

効率的で質の高い
行政窓口サービスを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

従来は、転出入の申請をする際は、転出及び転入する双方の市町村に来庁して手続きが必要で、異動が多い3月、4月は窓口が混雑し、長くお待ちいただくことがありました。

令和5年2月より、マイナンバーカードを活用し、転出届をオンラインで申請し転入先の市町村にのみ来庁することで手続きが可能となりました。

また、既にコンビニ等に設置してあるマルチプリンターを利用して、各種証明書の発行なども実施しています。

令和8年4月1日には、新たにマイナンバーセンターを設置し、引き続きマイナンバーカードの取得率向上に努めるとともに、利便性の向上と活用の推進を図ることなどにより行政窓口サービスの向上を目指します。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- マイナンバーカードを活用した効率的な行政窓口サービスを、より多くの市民に実感してもらうため、マイナンバーセンターや出張申請受付等により、マイナンバーカードの普及率を上げていく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

マイナンバーカードの利便性の周知

- マイナンバーカードを利用することで、利便性が高まる行政サービスの導入が進められていることから、それらについて、広報紙、HP、各種 SNS を利用した周知活動を行います。

マイナンバーカードの普及

- マイナンバーカード普及促進のため、引き続きマイナンバーカード申請・交付特設窓口や時間外受け取り窓口を開設します。
- 市職員が市内の希望する団体を訪問し、写真撮影とマイナンバーカードの申請受付を行います。また、団体に限らず、一人暮らしの高齢者や障がいなどで交通手段がない人を対象とした個人向けサービスや、商業施設などにスマートカウンターの導入を検討します。



マイナンバーカード出張申請

関連する 計画

- 白河市DX推進方針
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

市民課

めざすまちの姿②

誹謗中傷や差別的な言動のない、
住みよい地域社会を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

「人権」は誰もが生まれながらにして持っている権利であるにも関わらず、子ども、女性、障がい者、外国人などに対する様々な人権問題が発生しています。

そこで、白河市思いやり条例により市及び市民の責務を明らかにすることにより、新型コロナウイルス感染症をはじめとする疾病、障がい、性別等を理由とした誹謗中傷又は偏見に基づく差別的な言動による社会的な孤立をなくし、市民一人ひとりが思いやりの心を持ち、互いに支え合う住みよい地域社会が実現してほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- いじめや体罰を理由とした児童生徒の自殺・親の養育放棄による乳幼児の衰弱死など、子どもが被害者となる痛ましい事件が発生し、社会問題となっているため、人権の啓発活動を実施していく必要があります。
- インターネットの普及に伴い、その匿名性及び情報発信の容易さから、個人に対する誹謗中傷、名誉やプライバシーの侵害、差別を助長する表現の掲載など、人権に関わる諸問題が複雑かつ多様化しているため、人権に対する意識の醸成を図る必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

人権尊重思いやり事業の実施

- 小中学生を対象とした人権擁護委員からの講話や啓発物品の配布など、人権に関する事業を実施することで「仁」の心について考える機会をつくり、思いやりの心を育むことができるよう啓発活動を推進します。

「白河市思いやり条例」による市と市民の意識の醸成

- 「白河市思いやり条例」の趣旨及び人権尊重の理念を広く市民に浸透させ、人権擁護委員と連携しながら、正しい知識に基づく教育活動や不当な差別に対する適切な支援及び助言が行えるよう、啓発活動を実施します。



人権の花贈呈式



人権街頭啓発活動